

平成31年(令和元年)度活動報告書

「健口美[®]」レポート 2019

ご挨拶



公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所

理事長 濱 逸夫

私どもの口腔保健普及活動は、口腔衛生への関心を高めることを目的に1913年に開催した「ライオン講演会」を原点としています。また、1921年には日本で最初となる児童専門の歯科医院「ライオン児童歯科院」を開設しました。この2つの活動が当財団の前身となっています。2010年10月からは「公益財団法人ライオン歯科衛生研究所」となり、口腔保健の普及啓発を図り、心身の健康と福祉に寄与することを目指し、さまざまな活動を展開しております。

2019年6月に閣議決定された「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）2019」には、口腔の健康が全身の健康にもつながるという認識のもと、生涯を通じた歯科健診、歯科医師・歯科衛生士による口腔健康管理などの歯科口腔保健の充実、入院患者等への口腔機能管理などの医科歯科連携に加え、介護、障害福祉関係機関との連携を含む歯科保健医療提供体制の構築に取り組むことが明記されています。このように、歯や口の健康は、生活の中で大切な機能を担っており、その重要性はますます増えています。

8020運動や国の諸施策と、生活の質（QOL）の向上と健康寿命の延伸、人生100年時代の実現をめざし、歯科口腔保健に関するさまざまな活動を行っている当財団の事業の方向性は極めてよく合致しているものと考えております。

この度、当財団の活動をより多くの方々に知っていただくことを目的に年次報告書「健口美レポート2019」を作成いたしました。ご覧いただければ幸甚に存じます。

これからも、人々が健康で幸せな毎日を、満ち足りた人生を過ごせるよう口腔保健に関するさまざまな事業に取り組んでまいります。今後とも、当財団へのご理解とご指導ご鞭撻を賜りたくよろしくお願い申し上げます。

「健口美」に込めた想い



（公財）ライオン歯科衛生研究所では、「食べる」、「話す」、「笑う」など、生活するうえで大切な役割を果たす口腔に対して、人々のケア意識のさらなる向上を目指し、「健康な心と身体はお口から！“健口美”」のコンセプトのもと、生活者の生活の質（QOL）の向上につながるように支援を行っています。

Oral Health（口腔の健康）、Oral Beauty（口腔の美しさ）、Communication（コミュニケーション）の三つの要素が機能し、かつ調和していることからもたらされるもの、それが「健口美」です。三つの要素を保持・増進することで、口腔だけでなく身体の健康および心の健康、その結果として生活の質（QOL）の向上に繋がると私たちは考えます。「健口美」には健康なお口の「健」、良好なコミュニケーションを行う「口」、美しいお口の「美」という意味が込められています。

財団の概要

「お口の健康」を通じて、生活の質の向上に努めます

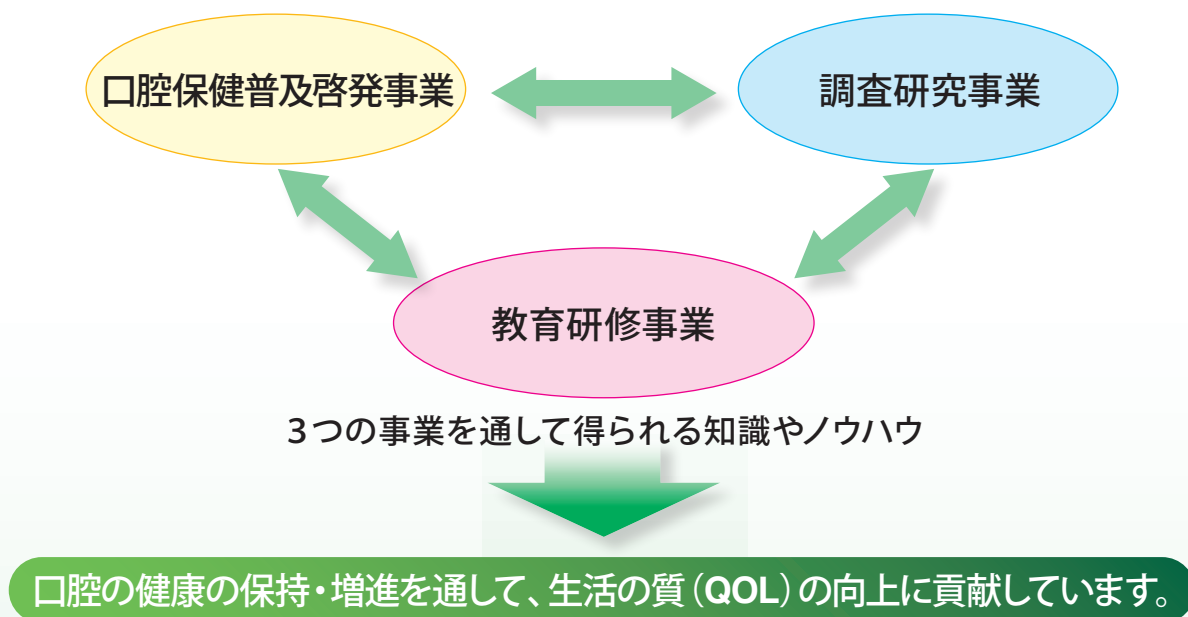
ライオンは「企業活動で得た利益を社会に還元する」という創業以来の一貫した理念のもとに、1913年から口腔保健の普及・啓発活動を行ってきました。当財団はその前身としての「ライオン児童歯科院」を1921年に開設、その後1964年に財団法人ライオン歯科衛生研究所として発足、2010年には公益財団法人ライオン歯科衛生研究所として「口腔保健普及啓発事業」、「調査研究事業」、「教育研修事業」の3つの事業を推進しています。

財団の3つの公益事業

- ① 口腔保健普及啓発事業 ▶ 乳幼児から高齢者まで、それぞれのライフステージにおける口腔保健のテーマに応じた普及啓発を推進しています。
- ② 調査研究事業 ▶ 口腔保健普及啓発事業や予防歯科研究活動を通して得られた研究成果を専門家や生活者に情報発信しています。
- ③ 教育研修事業 ▶ 保健指導者や歯科専門家に対する各種セミナーや講演会を実施しています。

当財団では、これら3つの事業を通して、生活者の口腔の健康の保持・増進し、生活の質の向上に貢献できるよう努力を続けています。

(公財)ライオン歯科衛生研究所の活動



社会問題に対する研究活動の取り組み

～歯周病および歯みがき習慣と肥満の発症との関連性に関する研究～

歯周病および歯みがき習慣と肥満の発症との関連性に関する研究

近年、我が国は超高齢者社会を迎え、「歯周病」や「生活習慣病」の予防など、健康への関心が高まっています。歯周病は歯周病細菌を原因とする口腔内疾患ですが、いろいろな全身疾患との関連性が指摘されています。の中で、メタボリックシンドロームは、内臓脂肪型の肥満を基盤として、高血圧、高血糖および脂質代謝異常を併せもつ状態で、メタボリックシンドロームの予防は生活の質 (quality of life) の向上と健康寿命の延伸のためにきわめて重要と考えられています。

私たちは、日本人を対象として歯周病とメタボリックシンドロームとの関連性を検討した疫学研究はきわめて少ないことから、職域成人を対象として歯周病とメタボリックシンドロームの関連性について横断研究を行い、歯周ポケット保有者はメタボリックシンドロームの陽性数が多いことを報告しました (Morita et al., J Pub Health Dent 2009)。さらに、4年間および9年間のコホート研究を行い、歯周病罹患者はメタボリックシンドロームの発症リスクが高くなることを報告しました (Morita et al. J Periodontol, 2010. Metab Syndr Relat Disord, 2016.)。

そこで、メタボリックシンドロームの基盤である肥満についても注目しました。2014年に世界保健機関 (WHO) は、世界中で肥満の成人は約6億人で、将来的にさらなる増加が見込まれると推定しています。肥満は、2型糖尿病、高脂血症、高血圧、動脈硬化、心臓血管および脳血管疾患、睡眠時呼吸障害などQOLを著しく低下させる多くの疾患の重要な危険因子であるといわれています。これらの疾患は、職域の成人で多数を占める中年期で有病率が高いことから、肥満の予防は社会経済的にも大変意義があると考えられます。

そこで、私たちは日本大学歯学部と共同で、歯周病およびその予防手段である歯みがき習慣が、肥満の発症に影響するかどうかを明らかにするため、コホート研究を行いました。

その結果、4mm以上の歯周ポケットの保有者は肥満を発症するリスクが高いこと (危険度1.64)、また、1日3回以上の歯みがき習慣は、1日1回以下に比べて、肥満の発症リスクを低下させること (危険度0.47) を明らかにしました。

以上の調査の解析より、良好な口腔清掃習慣や歯周病の予防は、肥満の予防に貢献する可能性があることが示唆されました。

<論文>

Med Sci Monit, 2019; 25: 9712-9720 (Medical Science Monitor)

Effect of Periodontitis and Toothbrushing Frequency on Obesity Onset: A Cohort Study

(歯周病および歯みがき習慣と肥満の発症との関連性に関するコホート研究)

Toyoko Morita, Yoji Yamazaki, Misae Seto, Takashi Yamamoto,
Kumiko Nakai, Hideki Tanaka, Manami Ozaki, Ryosuke Koshi,
Masao Maeno, Takayuki Kawato

Medical Science Monitor に掲載された論文



Med Sci Monit. 2019; 25: 9712-9720. PMCID: PMC6930697
Published online 2019 Dec 18. PMID: 31852008
doi: [10.12659/MSM.917356](https://doi.org/10.12659/MSM.917356)

Effect of Periodontitis and Toothbrushing Frequency on Obesity Onset: A Cohort Study

[Toyoko Morita](#),^{1,2,A,C,D,E,F,G} [Yoji Yamazaki](#),^{1,A,C,D,E,F,G} [Misae Seto](#),^{3,B}
[Takashi Yamamoto](#),^{1,A,G} [Kumiko Nakai](#),^{2,4,D,F,G} [Hideki Tanaka](#),^{2,4,D,F,G}
[Manami Ozaki](#),^{2,4,F,G} [Ryosuke Koshi](#),^{2,D,F} [Masao Maeno](#),^{5,A,D,E} and
[Takayuki Kawato](#),^{2,4,A,D,E,F,G}

結果

表 1.
歯周ポケット保有と肥満発症との関連性

2002年の口腔状態	2006年の肥満の有無				オッズ比† (95% CI††)
	非肥満		肥満		
	(n=1,479	91.4%)	(n=140	8.6%)	
	N	%	N	%	
歯周ポケットの有無					
歯周ポケットなし	1,103	92.7	87	7.3	1
歯周ポケットあり	376	87.6	53	12.4	1.64 (1.11-2.40)

* $P < 0.05$
† 年齢,性別,喫煙,適正体重,メタボ指標で調整
†† CI,信頼区間

表 2.
歯磨き習慣と肥満発症との関連性

2002年の 口腔清掃習慣	2006年の肥満の有無				オッズ比† (95% CI)††
	非肥満		肥満		
	(n = 1,479 91.4%)	(n = 140 8.6%)			
	N	%	N	%	
歯磨き回数					
≤ 1	123	83.7	24	16.3	1
= 2	574	90.4	61	9.6	0.62 (0.37-1.07)
≥ 3	782	93.4	55	6.6	0.47 (0.28-0.82) **

** $P < 0.01$
† 年齢、性別、適正体重の維持、メタボ指標で調整
†† CI, 信頼区間

結果の抜粋 (表 1. 表 2.: 日本語訳)

口腔機能の健やかな育成・保持増進に向けて 財団での啓発活動の取り組み

「食べる」「飲み込む」「話す」といった人々が健康で充実した生活を送るために欠かせない機能が「口腔機能」です。特に高齢者では、口周りの機能が低下してしまった状態を「口腔機能低下症（オーラルフレイル）」といい、歯を失うことによってよくかめなくなったり、飲み込めなくなることにより、栄養不足となることで、全身の機能が衰えてしまうという問題があります。

一方、口腔機能は高齢者の機能低下だけではなく、幼少期のこの口腔機能が形成される時期も重要です。2018年の診療報酬改訂において、「口腔機能発達不全症」および「口腔機能低下症」が病名として登録され、すべての世代の方に向けた取り組みが求められています。そこで、当財団では、調査研究活動や口腔保健普及啓発活動を通じて、口腔機能の重要性についての啓発を推進しています。

小児の口腔機能に関する研究の推進

近年、子どものむし歯が減少する中で、「食べこぼす」「食べ物を上手く飲み込めない」といった口腔機能に問題がある子どもが増加していると言われ、小児期からの口腔機能の育成が重要であることが伺えます。しかしながら、その実態や要因など不明点が多く残されているのも現状です。そこで、当財団では、小児の「口腔機能発達不全症」を改善・予防する事を目的に研究を行っております。

今年度は、まず口腔機能の実態把握や要因を検討することを目的に、横浜市の幼稚園と保育園に通う3～6歳児の保護者355名を対象に質問紙調査を行った結果、口呼吸の早期発見に繋がる5つの徴候が明らかにすることができました。今回の結果は、口腔機能の問題を早期発見する為に重要だと考えており、「第57回日本小児歯科学会大会（2019年6月/札幌市）」にて報告しました。

今後も調査研究を継続し、口腔機能発達不全症の改善・予防に繋がる方法の確立を目指します。



第57回日本小児歯科学会大会にて発表を行う財団歯科衛生士

子どもから高齢者まで幅広い方に向けた口腔機能普及啓発活動の実施

2019年度、当財団では子供から高齢者まで幅広い年齢層の方に口腔機能の重要性を理解してもらうきっかけの1つとして、新たに「かみかみゴクゴク体操」を制作しました。この「かみかみゴクゴク体操」は、「かむ力」「飲み込む力」に焦点を当て、身体のストレッチと口元の体操を短時間で行えるように組み合わせた体操です。制作にあたっては、耳鼻咽喉科専門医の浦長瀬昌宏先生、歯学博士の照山裕子先生にご監修頂き、医科、歯科両面からの意見を基に制作しました。

口元の機能は気が付かないうちに衰えやすい部分です。衰えに気が付いてから対処するのではなく、口腔機能を育成したり、衰えることを予防するために早期から行うことで、口腔機能を維持向上することに寄与できればと考え、「かみかみゴクゴク体操」の普及啓発を推進しています。



生活者向けに制作した
「かみかみゴクゴク体操」
パンフレット

「かみかみゴクゴク体操」を通じた口腔機能普及啓発活動の推進

当財団では、2019年度に制作した「かみかみゴクゴク体操」を用いて、幅広い年代の方に向けた啓発活動を推進しました。

高齢者世代の国体ともいえるスポーツの祭典、全国健康福祉祭「ねんりんピック」が、2019年11月9日から4日間、和歌山県で開催されました。当財団はねんりんピックのイベントとして、「お口にいいことセミナー」を開催し、約200名の方に啓発を行いました。かむ力、飲み込む力の大切さを伝える講演と共に「かみかみゴクゴク体操」を来場した多くの市民の方に実施いただきました。参加者からは「飲み込む力の大切さを初めて知った」といった感想が聞かれました。その他にも、各種イベントや講演会などで「かみかみゴクゴク体操」を通じ、口腔機能の重要性の啓発活動を推進しています。

今後も口腔機能の重要性を認識する方が増え、気になる方には適切な検査を受診するきっかけを与えられるよう、継続した取り組みを推進していきたいと考えております。



全国健康福祉祭「ねんりんピック」にてイベントを実施する様子

口腔保健普及啓発活動

母子歯科保健活動

2019年度参加乳幼児・園児 1,612人

累計: 115万人

妊婦・乳幼児とその家族が集まるイベントでの普及啓発活動

母子歯科保健活動は乳幼児のむし歯予防には、母親のむし歯予防への理解と関心を高めることが大切であるとの考えから、1959年より始まりました。現在は、地域行政や歯科医師会などと連携し、妊婦や乳幼児、園児とその保護者を対象に活動を行っています。

2019年度の主な活動として、4月にパシフィコ横浜で開催された(一社)日本マタニティフィットネス協会主催の「マタニティ&ベビーフェスタ2019」で、ブース展示と子育て中の保護者向け講演会を行い2日間531組のご家族に情報提供を行いました。ブース展示では、妊婦や子育て中の保護者向けに「歯みがき相談室」を実施しました。妊娠中の歯のケア方法や、子供の歯が生えてくるころの「はじめての歯みがき方法」など、生活者の気になる悩みについて歯科衛生士が答えました。参加者の方からは「どうやって歯みがきを始めたらいいいのかわかって安心した」「子供のためにも家族みんなで歯を健康に保つことが大切だと感じたので早めに歯科医院に行きたい」といった声も聞かれました。

今後も子供が生涯にわたって健やかな歯と口を育んでいけるよう予防歯科の重要性を啓発していきます。



子育て中の保護者の方向けにオーラルケアの講演会を行う様子

小学生歯科保健活動

2019年度歯みがき大会参加児童数 約24万人

歯みがき大会累計: 169万人

第76回全国小学生歯みがき大会を開催し、約24万人が参加

全国小学生歯みがき大会は、小学生の歯と口の健康意識を育むことを目的に、毎年「歯と口の健康習慣(6月1日～10日)」に合わせて開催しています。1932年の第1回大会から76回大会まで参加した小学生は、延べ169万人に及びます。第76回大会は、インターネット配信による全校一斉実施方式からDVD方式に変更して3回目の開催となり、全国47都道府県及びアジア6か国地域の小学校から総数4,255校約24万人の参加がありました。

今大会は、「歯と自分をみがこう。」をテーマに掲げ、明海大学学長安井利一先生の監修の下、歯肉を題材とし、歯肉炎の原因や自身の歯肉の状態を理解し、その状態にあった歯みがきやデンタルフロスの使い方について学びました。自分自身を律することで生活習慣が確立されることや、その経験が生涯の健康づくりにつながることを伝えています。さらに今大会では、デンタルフロスの複数本配布や、保護者向けメッセージ、お便りの配布を通じて、家庭内での歯科保健の取り組みに繋がるよう支援を行いました。

今後も、多くの小学生にオーラルケアの重要性、継続することの大切さを伝えるため、内容の充実を図り、活動を行ってまいります。



第76回全国小学生歯みがき大会に参加しデンタルフロスの実習を行う児童の様子

「Kids歯ツカソン」の普及啓発

「Kids歯ツカソン」は、新学校指導要領に示されている「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」の視点を取り入れた、新しい健康教育プログラムです。「歯みがき」や「歯と口の健康」をテーマにして、小学生が自ら課題を発見し、その課題解決のアイデアを考え解決策を発表する過程を通して、歯と口の健康についてはもとより、それ以外のことでも自発的に考え、解決策を考える姿勢が身に付くことを目的としています。

2019年度は、全国で7校の小学校が当プログラムを実施しました。課題を解決するアイデアとして新商品を考え、家庭・地域の方の前で発表を行いました。学校内だけでなく、家庭・地域にも学習が広がるよう取り組みを行っています。

今後も、児童が「歯と口の健康」に興味関心を深め、より指導者が実施しやすいプログラムとなるよう改良を重ね、普及啓発を行ってまいります。



Kids歯ツカソンを実施し課題解決のアイデアを考える児童の様子

口腔保健普及啓発活動

思春期歯科保健活動

2019年度参加者数 244人

中学生を対象にした口腔保健指導を実施

思春期歯科保健活動は、生活習慣などの乱れが多くなり、むし歯や歯周病が発生・悪化する思春期の生徒に、健康への関心を高め、自分の生活や健康についての課題を発見・解決できるよう動機づけすることが大切との考えから始まりました。

近年、小学生のむし歯本数は減少していますが、中学生以降になると口腔内状態が悪化してしまう傾向があります。小学生で培ったよい生活習慣を中学生になっても継続できるよう支援して支援しています。

2019年度は、中学生約70名の生徒を対象に歯科保健指導を行いました。思春期の興味関心のある口臭や見た目を切り口に、歯の重要性、むし歯・歯肉炎の予防方法、効果的な歯みがきやデンタルフロスの使用方法について啓発しました。

今後も、思春期の生徒に向けて啓発を行い、歯と口の健康から生涯にわたる健康習慣が確立されるよう支援していきたいと考えています。



中学生に向けて歯科保健指導を実施する当財団歯科衛生士

成人歯科保健活動

2019年度参加者数 15,212人

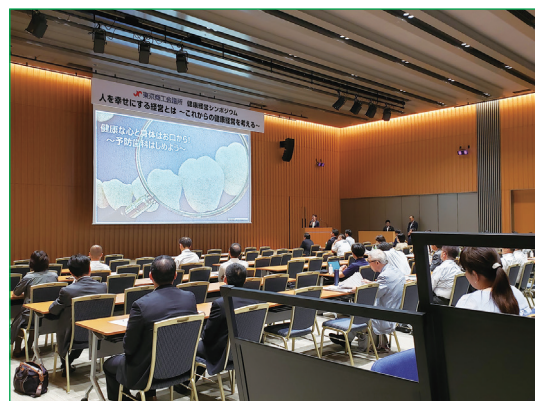
累計: 212万人

企業向け歯科健診・講演会の実施

当財団の成人歯科保健活動（産業歯科保健活動）は、家族の歯と口の健康を守るためには、特に女性を中心に指導を行うことが重要との考えから、1961年に「さくらんぼ活動」の愛称で開始されました。現在は就業者を対象に歯科健診、唾液検査、歯科保健指導、講演会などを実施しています。2019年度は171事業所約1万7千人の就業者を対象に実施し、これまで212万人に活動を行いました。

働き盛りの成人期に、自分の歯と口の健康状態を理解し、予防意識を高めることは健康寿命の延伸や生涯にわたる生活の質の向上に大きく影響してきます。継続して歯科保健活動を行うことは、就業者の予防意識を高め、歯科疾患の減少、さらには歯科医療費の削減などにも繋がっていくことが期待できます。

これからも、歯と口の健康を通じて全身の健康を見据えた予防意識の向上、および健康行動への変容を目指し、より質の高い歯科保健活動を行ってまいります。



講演会を実施する当財団歯科衛生士

企業従業員の健康保持増進のための取り組み

当財団ではライオン株式会社、ライオン健康保険組合と共に、従業員が自ら歯と口の健康に関する予防意識を高め、健康の保持増進に結び付けられるよう、全従業員を対象に定期健康診断とあわせて歯科健診や保健指導を行っています。

(All Lion Oral Health Activity(ALOHA))

ALOHA活動は2002年度から始まり、今年度は第6期（2019年度～2021年度）の初年度となります。第5期に引き続き、自らの口腔内状態について理解を促進するため、唾液検査システム（SMT）を導入したお口の健康状態の確認、口腔内カメラを使用した保健指導の実施を継続しています。さらに、第6期からは口腔機能低下への気づきを与えるため、飲み込みの検査を追加し、口腔機能を維持することの大切さも伝えています。また、重症化予防として、特定保健指導対象者には保健指導時に産業看護職から歯科健診結果のフィードバックを行うなど、医科歯科連携し従業員の健康増進に努めています。

これからも従業員のオーラルケアへの意識向上と好ましい健康習慣に結び付けられるよう活動してまいります。



企業従業員に対して保健指導を行う様子

口腔保健普及啓発活動

職域成人における歯科口腔保健普及啓発事業

成人期における、口腔の健康の大切さを広く啓発するため、データヘルス計画の視点、および健康経営の視点で啓発活動を行いました。

データヘルス計画の視点では、「データヘルス・予防サービス見本市」(厚生労働省 予防・健康インセンティブ推進事業)において、健康保険組合、産業看護職、保健事業者向けにブース出展を行い、成人期における口腔の健康課題や当財団の取り組みを紹介して、多くの方に関心をもっていただきました。また、導入したいソリューションを選出する出展者アワードでは第6位に入賞し、口腔の健康への関心の高さが伺えました。

健康経営視点での活動では、今年度から、東京商工会議所 健康づくり・スポーツ振興委員会主催のシンポジウムにて企業役員、人事、総務関係者向けにブース出展、および当財団の取り組み紹介を行いました。企業では、口腔の健康についての関心が少ないようでしたが、取り組みの紹介を行うと質問等を多くいただき、口腔の健康に興味を持ってもらう良い機会となりました。

今後もさまざまな場面で成人期における口腔健康の大切さを啓発してまいります。



ブース出展時に当財団の取り組みを紹介する様子

高齢者歯科保健活動

2019年度参加者数 66,042人

累計: 18万人(2007年より)

「健口美」体操の啓発活動の実施

生涯にわたり、「食べる」、「話す」、「笑う」など生活するうえで大切な役割を担う、口の機能(口腔機能)は、気付かないうちに年々低下しやすいため、日ごろから保持・増進していくことが大切です。当財団では、口腔機能の保持・増進に繋がるよう「健口美」体操を作成し、生活者の皆様へ情報発信を行っています。

2019年度は、全国各地で開催されたウォーキングイベントのステージ等で「健口美」体操の啓発や、高齢者向けの講演を行い、6万6千人に対して啓発を行いました。会場のブースでは自身の口腔機能の確認に繋げるお口の元気度チェックや歯科衛生士による個別のアドバイスをを行いました。お口の元気度チェックでは、「口の周り」、「かむこと」、「飲み込み」、「口の清潔度」の4つの分類で日頃の自分の口の状態を把握してもらい、低下している機能に合わせた「健口美」体操を紹介しました。

今後も、多くの人々が生涯にわたり、いつまでもおいしく食べ、楽しく話し、笑いのあるイキイキとした生活を送ることができるよう、普及啓発活動を行ってまいります。



TOKYOウォーク2019にて「健口美」体操を啓発する様子

ハンディキャップのある方に向けた歯科保健活動

障がいのある方に向けた歯科保健活動

当財団では、障がいがある人も、ない人も、平等に日常生活や社会生活を送ることができるよう、一人ひとりの特徴や場面に応じて妨げとなっている障壁を取り除くための合理的配慮を心がけた歯と口の健康支援を行っています。

2019年度は、企業に勤める障がいがある方23名に歯科講習会を行いました。さらに、特別支援学校7校136名および、児童発達支援・放課後等デイサービスを利用する障がい児6名に歯と口の健康教室を開催しました。

今年度初めて実施した、児童発達支援・放課後等デイサービスは、聴覚障がい児が多く在籍しているため、手話を用いて健康教室を行いました。また、表情を含む手話表現や資料の内容・見せ方は、障がい者支援団体の監修を受け、障がいの程度に関係なく、誰にでも分かりやすく伝わるよう努めました。

今後も、障がい者支援団体や特別支援学校の先生方と連携を取り、障がいのある方への歯科保健活動に取り組んでまいります。



聴覚障がい児にも分かりやすい手話や模型などを用いて指導を行う当財団歯科衛生士

口腔保健普及啓発活動

スポーツの場面における歯科保健活動

卓球強化選手に向けた歯科保健活動

日本卓球協会の園児・小学生強化選手を対象に、主体的な健康づくりの一環として、男女各4回、約130名に歯科保健講話を実施しました。

ジュニアアスリートとして、高いパフォーマンスを発揮するために、健康づくりは必要不可欠です。その健康づくりの一環として、自分の口腔内の状況に合った歯のみがき方やオーラルケア製品を選んで使用する「工夫する力」を身につける大切さや、日々のトレーニングと同様に毎日のオーラルケアも良き生活習慣の1つとして「継続する力」を身につける大切さを示しながら、オーラルケアとスポーツの関係性と重要性を伝えました。

小学生期は他律から自立への移行期であり、特にジュニアアスリートは遠征等で親元を離れる機会も多いことから、正しいオーラルケア習慣の定着が規則正しい生活習慣へと繋がり、主体的な健康づくりができる力を育んでもらいたいと考えています。

これからも、歯科保健活動を通じて、歯・口腔の健康に留まらず、全身の健康を見据えて、良いパフォーマンスの発揮や、夢の実現のために支援してまいります。



卓球強化選手に向けた歯科保健活動を行う様子

その他歯科保健活動

歯科衛生士学校での講演会の実施

普及啓発活動の一環として、歯科衛生士学校から依頼を受け、在学生に向けた講演会を行っています。2019年度は2校の学生、計32名を対象に健康教育や臨床業務、認定歯科衛生士について先生方の要望に応じた幅広い内容で講演会を実施しました。

小学校で健康教育実習を予定している歯科衛生士学校では、「小学校低学年を対象とした健康教育の実際とポイント」をテーマに、学生が自分達で指導要項を作成出来るよう支援しました。講義の前半では、当財団で実施している学習指導要領に基づいた指導内容の組み立て方を紹介したり、対象学年の口腔内状況や課題などを一緒に検討しました。後半では、実習先の小学校の口腔内状況や歯科習慣等の把握をする為のアンケート作成やテーマ設定など作業分担し、グループ毎に話し合いました。

これらの活動は、歯科衛生士の業務内容を伝えるだけでなく、将来歯科衛生士として活躍する学生に当財団を知ってもらう良い機会にもなっております。今後も、歯科衛生士を目指す学生を支援できるように活動を進めてまいります。



歯科衛生士学校での講演会時、学生の質問に答える当財団歯科衛生士

ホームページなどを用いた情報発信活動

ホームページ「ママ、あのね」を通じた取り組み

2018年6月から妊婦と乳幼児の保護者を対象に、育児や歯と口の健康に関する情報を発信するサイト「ママ、あのね。」を公開しています。当サイトでは、産婦人科医・小児科医・小児歯科医・小児栄養学の専門家の監修の下、妊娠中から乳幼児期にかけて必要な育児・歯科・食・病気等の情報を月齢別に分かりやすく掲載しています。

公開から2年目となる2019年度は「妊娠中の感染症予防」や「赤ちゃんの歯みがき開始時期」、「口呼吸」、「歯並び」等、妊娠期や乳幼児期の保護者が抱える特有の悩みや興味、関心事に対する情報をイラストや動画を交えて発信し、約200万人の方に閲覧頂きました。また、賛同が得られた地域行政では電子母子健康手帳へのサイトのリンク掲載や乳児健診の個別相談時にサイトの掲載情報が、コミュニケーションツールの一つとして活用されました。

今後もより多くの妊婦や乳幼児の保護者に歯と口の健康の大切さを伝えるために、サイトの拡充と共に、地域行政等と連携を図る等、様々な方法で情報発信を行ってまいります。



育児と乳歯の健康サイト「ママ、あのね。」

ママ、あのね。



口腔保健普及啓発活動

海外での活動

当財団では、長年培ってきた口腔保健指導の知識や経験を世界、特に東南アジアの国々に広げ、口腔保健の向上に貢献したいと考えています。各国・地域の企業など他団体からの依頼により活動を実施しています。今後もそれぞれの国・地域に根付く活動となることを目指しています。

台湾 歯みがき大会及び歯科保健指導の実施

第76回全国小学生歯みがき大会は、日本全国47都道府県とアジア6ヶ国・地域の小学校から参加がありました。

台湾では6月24～26日に日本人学校2校(台中日本人学校・高雄日本人学校)が参加、計107名の児童が参加しました。全国小学生歯みがき大会は歯肉炎がテーマで、自分自身の歯肉観察やデンタルフロスの実習では当財団の歯科衛生士がサポートに入りながら行いました。低学年には、クイズや実習を交えながら、歯の大切さや効果的な歯みがき方法について歯科保健指導を行いました。

また、同じ期間に台湾の現地小学校3校(烏日國民小學、五權國民小學、集美國民小學)に訪問し、計630名の児童を対象に歯と口の大切さについて歯科保健指導も行いました。

今後も、海外における日本人学校や現地の子供たちに対する歯と口の健康の向上に貢献してまいります。



台湾の小学校での記念写真

中国 生活者へ向けた保健指導の実施

2019年11月に、中国商務省部・上海市人民政府主催の「第二回中国国際輸入博覧会」で、ブースを出展し、現地の来場者を対象に口腔保健の啓発を目的とした歯みがき相談室を行いました。当財団の歯科衛生士が口腔内カメラを用いて気になる部分を確認し、口腔内状態にあった歯みがきなどの保健指導を5日間で約650人に行いました。

中国では、予防歯科の概念が浸透していなかったため、むし歯・歯周病の予防を中心に、個人に合った歯科保健指導を行い、口腔保健の重要性について伝えました。

それぞれの国の文化や環境により、口腔内状態や口腔衛生への取り組みは大きく異なります。当財団の日本での長年にわたる口腔保健啓発活動の取り組みを活かして、各国の課題に応じた啓発活動を推進し、口腔保健の向上に貢献していきます。



「第二回中国国際輸入博覧会」ブースにて歯みがき相談室を行っている様子

教育研修活動

ライオン健康セミナー

2019年4月21日、第28回ライオン健康セミナーをグランフロント大阪で開催し、226名が参加しました。

「人生100年時代」といわれる現在、歯科医療は健やかで心豊かな活力ある社会をめざしていく上で、その重要性を増してきています。今回のセミナーでは、生涯にわたる口腔の健康を通じた全身の健康の保持増進や生活の質(QOL)の向上に関する最新情報を、各分野でご活躍の3名の先生からご講演いただきました。なお、2019年1月27日に同じ内容のセミナーをイノホール(千代田区)でも開催しました。

基調講演の大平哲也先生からは、多くの研究データから、笑いが健康やストレス軽減に関連していることや、日常生活の中で笑いを増やす方法などについて解説いただきました。今井一彰先生からは、口呼吸の口腔への為害性や口呼吸の改善法の解説に加え、口呼吸の多くは歯科治療中に発見が可能であり、観察眼を養うことの重要性を解説いただきました。南崎伸樹先生からは、歯周治療の中で歯肉を診る目を養い、患者さんとの信頼関係を築いていく歯科衛生士の役割の重要性について、症例を交えながら講演いただきました。

今後も「ライオン健康セミナー」を通じて口腔の健康に関連する最新情報や歯科診療所で役立つ情報を発信して参ります。



第28回ライオン健康セミナー 基調講演の様子

基調講演：大平哲也先生(福島県立医科大学医学部教授)

▶「笑いによる口腔と心身の健康づくり」

講演1：今井一彰先生(みらいクリニック院長)

▶「もう知ってる?まだ知らない?口呼吸のあれこれ」

講演2：南崎伸樹先生(南崎歯科医院院長)

▶「歯周病悪化の原因はこれだ!歯肉を診て、歯槽骨を読み、そして患者さんをその気にさせる!」

調査研究活動

東京デンタルクリニック

2019年度患者数 5,502人

累計: 186万人

東京デンタルクリニックは、1921年(大正10年)に東京京橋区山城6番地(現在の東京都中央区銀座)に開設された「ライオン児童歯科院」に始まります。1971年以降、目黒での診療所を経て2014年に五反田駅前に新たに開設されました。現在は、乳幼児から高齢者まで全てのライフステージの方々に対して予防歯科活動、診療活動を行っています。



障がい者歯科外来の取り組みについて

東京デンタルクリニックは、公益財団法人の診療所として安心・安全な歯科医療を提供するだけでなく、地域包括ケアの実現を目指して取り組みを行っています。

地域すべての方の口腔保健向上に貢献するべく2017年4月には障がい者歯科を開設し、現在は月2回日本障害者歯科学会の専門医による診療を行っています。当院は、絵カードや笑気吸入鎮静法を行い、知的障がい・精神障がいなどの特別な配慮を必要とする方にも適切な治療や口腔ケアが提供できる体制をとっています。また、近隣の歯科医院とも連携し、より患者に寄り添った歯科医療をご提案できるよう支援にも努めています。

開院当初から院内はすべてバリアフリー設計になっていますが、さらに今年度は待合室に筆談器を設置し、聞こえない人、聞こえにくい人への配慮と理解を示す「耳マーク」を掲示することで、聴覚障がいを含む身体障がいの方も安心して通院できる環境となりました。



待合室に設置した「耳マーク」
聴覚障がいを含む身体障がいの方も安心して通院できるよう配慮を行っている。

東京デンタルクリニックでの地域活動

当院では2017年から地域活動として、近隣の保育園のかかりつけ歯科医を担い、年2回の歯科健診及び年1回の歯科保健指導を行っています。

歯科健診は全ての園児を対象にむし歯の有無だけでなく、かみ合わせや口腔習癖など、お口の中全体を診査するよう努めています。また、未受診の園児がないよう、当日参加出来なかった園児には後日当院にて、他の園児と同様の歯科健診を実施しています。歯科保健指導は2～5歳を対象に、年齢に応じた内容をプロジェクターや音楽を活用し、楽しく学べるように工夫して実施しています。自分のお口の中を知ることが正しい歯みがき習慣を獲得する第一歩でもあるため、お口への興味を引き出す内容の提供に努めています。また、保護者には「歯みがきだより」を配布し、正しい歯みがき方法やフッ素の重要性についての情報提供だけでなく、園内のむし歯の割合、昨年との健診結果の比較などを掲載しています。当院の取り組みが日頃の歯みがき習慣を見直す一つのきっかけとなり、歯科への関心に繋がることを期待しています。

今後も、地域密着型の歯科診療所として社会に貢献して参ります。



園児向け歯科保健指導で用いる各種媒体
年齢に応じた内容で楽しく学べるよう工夫して実施している。

調査研究活動

調査研究活動の推進

歯科健診と医療費との関連性に関する研究の推進

2015年度からデータヘルス計画(第1期)がスタートし、健康保険組合では特定健康診査や診療報酬明細書などのデータ分析の結果をもとに、より効率的・効果的な保健事業が推進されてきています。

当財団では、ライオン健康保険組合がデータヘルス計画の中で2002年からライオンの全社員を対象にした歯科健診(ALOHA: All Lion Oral Health Activity)結果と診療報酬明細書を第三者機関に委託して連結匿名化したデータを借り受け、歯科健診と医療費などの関連性について獨協医科大学(公衆衛生学講座)と共同で解析を進めています。

2019年10月23-25日に開催された第78回日本公衆衛生学会で、2002年から2007年までのデータ(n=3,508)の分析結果から、すべての歯科健診受診者(6回)では、3回以下群に比較して歯科医療費が有意に低かったことや、歯周ポケットの状態の比較では、40～59歳群で歯周ポケットが「無い状態で推移した群」では、「保有した状態で推移した群」に比較して歯科医療費が有意に低いことが認められたことなどを報告しました。

今後も調査を継続して歯科健診の医療費、歯科医療費に及ぼす影響や健康の保持増進に役立つ要因を明らかにしていきたいと考えています。



第78回日本公衆衛生学会にて報告を行う当財団所員(右)

日本歯科衛生学会 学術賞受賞((公財)ライオン歯科衛生研究所賞)の表彰

日本歯科衛生士会と日本歯科衛生学会は歯科衛生の向上と実践に根ざした学術研究において、優れた成績を上げ、人々の健康と福祉に寄与する研究発表に対して学術発表賞(公益財団法人ライオン歯科衛生研究所賞)を毎年授与しています。当財団はこれに協賛し、学術の向上を支援しています。2019年9月14日～16日に開催された日本歯科衛生学会第14回学術大会(ウイנק あいち)において、2018年度日本歯科衛生学術発表賞の表彰式が行われ、受賞した3名の方に当財団の山本副理事長から副賞が授与されました。

第13回学術発表賞表彰者

[講演発表賞]

- ▶多職種による急性期脳卒中患者の口腔管理に関する研究
尾花 三千代(東京都)
- ▶地域在住自立高齢者における簡易口腔機能脳プログラムの効果について —台湾の調査から—
福田 昌代(大阪府)
- ▶フッ化物配合歯磨剤とフッ化物洗口液の併用による唾液中フッ素濃度保持について
坂本 彩耶(千葉県)



日本歯科衛生学会 学術発表賞受賞の様子
日本歯科衛生学会 学会長(左)
受賞者 (中央)
当財団山本副理事長(右)

学術発表

口腔保健に関する調査研究を推進し健康の増進に役立つ最新情報の発信を行っています。本年度は歯科保健と 全身健康および臨床症例などについて5件の論文投稿および8件の学会発表を行いました。

アンダーライン:財団所員

誌上掲載

- 1 原著論文
 - 1 Morita T, Yamazaki Y, Seto M, Yamamoto T, Nakai K, Tanaka H, Ozaki M, Koshi R, Maeno M, Kawato T.: Effect of Periodontitis and Toothbrushing Frequency on Obesity Onset: A Cohort Study. Medical Science Monitor. 18;25:9712-9720, 2019.
 - 2 R Hachisuka, T Kobayashi, M Yamaguchi.: Improvement of mechanical toughness of polypropylene by laminating with elastomer. Journal of Polymer Research. 26:246, 2019 (Published Online: September 2019)
 - 3 青山友紀、船山ひろみ、荻原佑介、湯沢真弓、岡部早苗、熊谷千明、山口桃枝、金丸直史、蜂須賀良祐、小林利彰、朝田芳信：軟質樹脂を主構成素材に用いた「新子供用歯ブラシ」の清掃能に関する臨床研究
小児歯科学雑誌 57 (3): 396-403, 2019.
- 2 報 告
 - 1 湯之上志保、石田直子、中向井政子、角田晃、高阪利美、荒川浩久：
歯科衛生士学生の歯科衛生教育にともなう歯磨剤の使用ならびに歯科保健行動と口腔内で気になることの変化
口腔衛生学会雑誌 69 (4): 211-217, 2019
- 3 症例報告
 - 1 Yuki Kojima, Mizuha Kojima, Kazuhiro Sakaguchi, Tomoka Kasen, Yutaka Sakaguchi: Neuromuscular electrical stimulation for sialorrhea in an elderly person with cerebral infarction. 旭中央病院医報 41:50-54, 2019

学会発表

- 1 関根千佳、後藤理絵：
歯科情報冊子配布による間接的保健指導の有効性 第92回日本産業衛生学会
- 2 貨泉朋香、野原佳織、黒川亜紀子、小林利彰、朝田芳信、船山ひろみ 他：
小児の口腔機能に関するアンケート調査～口呼吸の早期発見に繋がる5つの徴候～ 第57回日本小児歯科学会大会
- 3 森嶋清二、武田香、河野有里、山和馬、會田悠人、瀧本悠菜、石原央子、城隆太郎、丸山真達：
母乳および人工栄養児における口腔細菌叢の比較 第57回日本小児歯科学会大会
- 4 城隆太郎、瀧本悠菜、石原央子、丸山真達、山和馬、會田悠人、武田香、河野有里、森嶋清二：
出生から18か月までの乳幼児口腔細菌叢の両親との比較 第57回日本小児歯科学会大会
- 5 武井典子、深井穂博：
高齢者の口腔機能の評価と管理システムと健康教育への応用 第28日本健康教育学会学術大会
- 6 市橋透、後藤理絵、春山康夫、武藤孝司、小橋元：
全員参加方式で実施した職域での継続的な歯科健診と歯科医療費との関連性について 第78回日本公衆衛生学会総会
- 7 亀田麻未：
良好な信頼関係と歯周治療によって得られた限局型重度慢性歯周炎の改善が、全身健康への行動変容に寄与した一症例 第62回秋季日本歯周病学会学術大会
- 8 坂本真理子、黒川亜紀子、古屋忠、山本秀樹、山崎一男、森岡俊介：
被虐待児の早期発見のための口腔内状態の実態調査 日本子ども虐待防止学会 第25回学術集会ひょうご大会

外部助成活用事業(科研費、8020助成など)

- 1 川戸貴行、前野正夫、中井久美子、田中秀樹、森田十穂子：・歯周病に着目した非肥満型メタボリックシンドローム予防に関する細胞生物学・疫学研究
・科学研究費 基盤研究(C) 平成29年度～令和元年 日本大学歯学部
- 2 太田 浩一、吉成 伸夫、石原 裕一：・加齢黄斑変性のサブタイプにおける歯周病の関与
・基盤研究(C) 平成29年度～令和元年度 松本歯科大学
- 3 小出 雅則、吉成 伸夫、宇田川 信之、平賀 徹、上原 俊介、石原 裕一：・破骨細胞によるスクレロチン分泌制御を基盤とした新規歯周治療薬の開発
・科学研究費 基盤研究(B) 平成30年度～令和2年度 松本歯科大学
- 4 吉成 伸夫、尾崎 友輝、石原 裕一、田口 明、宇田川 信之：・老化制御による歯周病・動脈硬化症関連性への分子基盤の解明
・科学研究費 基盤研究(C)(分担) 松本歯科大学 平成30年度～令和2年
- 5 石原 裕一、小出 雅則、吉成 伸夫、中本 哲自、田口 明：・血清中sIL-1受容体補助タンパク濃度を用いた新規歯周病病態マーカーの開発
・科学研究費 基盤研究(C) 令和元年度～令和3年度 松本歯科大学、朝日大学
- 6 市橋透、後藤理絵、春山康夫、小橋元、武藤孝司：・某健康保険組合のビッグデータを活用した口腔内状態と医療費、健康状態、健康行動との関連性に関する長期的な疫学研究(2002年～2014年) (公財)8020推進財団 令和元年度8020研究事業 獨協医科大学医学部
- 7 後藤理絵：・職域成人における歯科口腔保健の普及啓発事業～無関心層への予防歯科情報発信
(公財)8020推進財団 令和元年度歯科保健活動事業助成

評議員・理事・監事

令和2年3月31日現在

評議員

評議員 18名

	氏 名	役 職 名	
評 議 員	朝田 芳信	鶴見大学 歯学部 教授	歯学博士
評 議 員	荒川 浩久	神奈川歯科大学大学院 特任教授	歯学博士
評 議 員	糸田 昌隆	大阪歯科大学 教授	歯学博士
評 議 員	小笠原 俊史	ライオン株式会社 人材開発センター	
評 議 員	河上 修	ライオン歯科材株式会社 統括部	
評 議 員	川口 陽子	東京医科歯科大学大学院 健康推進歯学分野 教授	歯学博士
評 議 員	川端 康嗣	ライオン株式会社 監査室	
評 議 員	川本 強	一般社団法人日本学校歯科医会 会長	歯学博士
評 議 員	菊谷 武	日本歯科大学 教授 口腔リハビリテーション多摩クリニック院長	博士(歯学)
評 議 員	佐藤 秀一	日本大学 歯学部 教授	博士(歯学)
評 議 員	嶋崎 義浩	愛知学院大学 歯学部 教授	博士(歯学)
評 議 員	新開 省二	東京都健康長寿医療センター 研究部 副所長	医学博士
評 議 員	花田 信弘	鶴見大学 歯学部 教授	歯学博士
評 議 員	平田 創一郎	学校法人東京歯科大学 教授	博士(歯学)
評 議 員	福田 洋	順天堂大学 医学部 総合診療科 先任准教授	博士(医学)
評 議 員	満武 純	ライオン歯科材株式会社 代表取締役社長	
評 議 員	三宅 達郎	大阪歯科大学 教授	歯学博士
評 議 員	柳沢 幸江	和洋女子大学 家政学部 教授	博士(栄養学)

理 事

理事 13名

役 職	氏 名	役 職 名	
代表理事理事長	濱 逸夫	ライオン株式会社 代表取締役 会長 公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 理事長	
代表理事副理事長	山本 高司	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 副理事長	
業務執行理事	石井 孝典	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 業務執行理事	
業務執行理事	須崎 優	公益財団法人 ライオン歯科衛生研究所 業務執行理事 統括部部長	
理 事	天野 敦雄	大阪大学大学院 歯学研究科 研究科長 大阪大学 歯学部 歯学部長	歯学博士
理 事	石井 拓男	東京歯科大学短期大学 学長	歯学博士
理 事	井出 吉信	東京歯科大学 理事長 学長	歯学博士
理 事	川添 堯彬	大阪歯科大学 理事長 学長	歯学博士
理 事	島川 智行	株式会社扶桑社 常務取締役	
理 事	田上 順次	東京医科歯科大学 特命副学長 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 教授	歯学博士
理 事	服部 正巳	愛知学院大学歯学部在宅歯科医療学寄付講座	歯学博士
理 事	安井 利一	明海大学 学長	歯学博士
理 事	山本 秀樹	公益社団法人 日本歯科医師会 常務理事	歯学博士

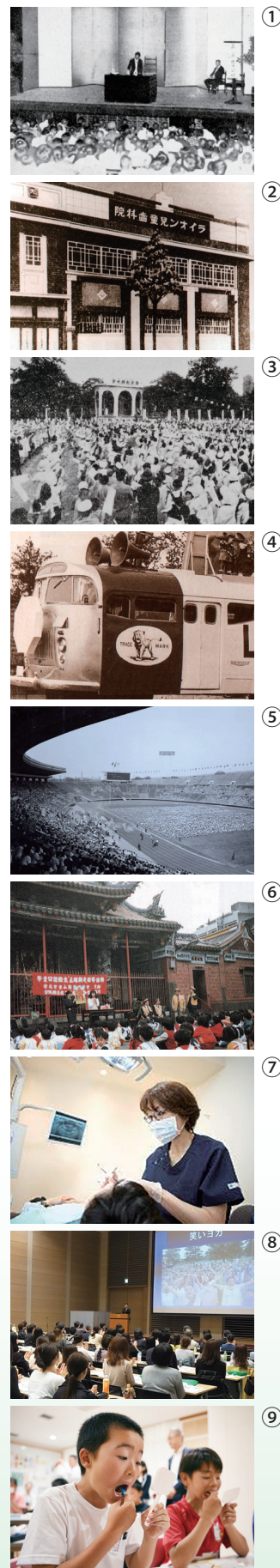
監 事

監事 3名

役 職	氏 名	役 職 名	
監 事	上林 博	上林法律事務所	弁護士
監 事	木村 直人	木村直人税理士事務所	税理士
監 事	鎌尾 義明	ライオン株式会社 監査役	

公益財団法人ライオン歯科衛生研究所のあゆみ

- 1913 年** 口腔衛生啓発活動開始(写真①)
- 1921 年** 「ライオン児童歯科院」開設(写真②)
- 1932 年** 「第1回学童歯磨教練体育大会」(現:全国小学生歯みがき大会)開催(写真③)
- 1952 年** 口腔衛生普及車「ライオン・ヘルスカー1号」完成(写真④)
- 1958 年** 母子歯科保健活動(たんぼぼ運動)開始
- 1961 年** 就業者への歯科保健活動(さくらんぼ運動)開始
- 1964 年** 「財団法人ライオン歯科衛生研究所」設立
「ライオンファミリー歯科診療所」開設(東京・京王デパート)
- 1965 年** 学童歯みがき大会をオリンピック競技場(国立競技場)で開催(写真⑤)
- 1984 年** 台湾の園・小学校で歯科保健活動実施(写真⑥)
- 1992 年** ライオン New Year セミナー(現:ライオン健康セミナー)開始
- 1998 年** マレーシアでの口腔保健活動実施
- 2004 年** 設立40周年記念として「歯周病と全身の健康を考える」を発行
- 2005 年** 視覚障がい者向け歯の健康冊子「さわってわかる歯みがきの本」監修
- 2007 年** ホームページ開設、季刊誌「お口の時間」発行
- 2009 年** 学童歯みがき大会のインターネット配信をスタート
- 2010 年** 公益財団法人として内閣府より移行認定
- 2014 年** 目黒駅前歯科診療所を東京デンタルクリニックとして五反田に移転・開院(写真⑦)
「口腔機能への気づきと支援ーライフステージごとの機能を守り育てるー」を発刊
- 2015 年** 「健康をみがく笑顔をふやす」シリーズ全4巻発行
- 2016 年** LDH国際シンポジウム[健康寿命の延伸に向けた歯科医療の使命と可能性]を開催
- 2017 年** 「歯みがき100年物語」発行
全国小学生歯みがき大会のDVD方式での開催をスタート
- 2019 年** 第28回ライオン健康セミナーを東京、大阪で開催(写真⑧)
第76回全国小学生歯みがき大会を開催。約24万人がDVDで参加(写真⑨)



公益財団法人 **ライオン** 歯科衛生研究所

<https://www.lion-dent-health.or.jp/>

東京本部

〒130-8644
東京都墨田区本所1-3-7
TEL.03-3626-6490
FAX.03-3626-4182

名古屋事業所

〒460-0003
名古屋市中区錦2-3-4
名古屋錦フロントタワー10階
TEL.052-220-6780

大阪事業所

〒541-0057
大阪市中央区北久宝寺町3-6-1
本町南ガーデンシティ5階
TEL.06-7739-8422

東京デンタルクリニック

〒141-0002
東京都品川区東五反田5-23-7
五反田不二越ビル2階
TEL.03-3473-6721
FAX.03-3473-6725